

教員養成課程音楽専攻生のピアノ実技指導に関する一考察(1)

—ベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕の学習意義の検討から—

蛭多 令子 埼玉大学教育学部芸術講座音楽分野
兼 重 直 文 三重大学教育学部音楽教育講座

キーワード：教員養成、ピアノ、アンサンブル、指揮、ソルフェージュ、学習指導要領

1. はじめに

古典派を代表するベートーヴェン〈L.v.Beethoven: 1770～1827〉は、その後を継いだ数多くの作曲家に創作の模範となる交響曲を残したが、『運命』として広く親しまれている《交響曲第5番Op.67》は、取り分けその役を担う最も代表すべき作品であると言っても過言ではない。そして、楽曲の構築性と芸術性を包含する作品の一例として中学校の音楽鑑賞教材としても取り上げられている。

ところで、オーケストラ作品のピアノ編曲版での演奏は珍しくはないが、オーケストラ楽器と性質の異なるピアノでの再現は、その表現に限界があることは否めない。しかし、オーケストラ作品のピアノでの再現に明確な学習意義が示されれば、ピアノ学習者の学びは有益なものとなる。

さて、本研究は、2016年3月21日に行われた間宮芳生¹⁾編曲によるベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕の初演と2017年2月15日に発刊された本編曲作品の楽譜編集に、蛭多・兼重が関わったことに始まる。その間宮芳生編曲版の誕生のきっかけは、日本ピアノ界の重鎮であった田村宏²⁾からの委嘱による。田村は東京藝術大学在職中の1953年から2年間の在外研修に赴いたが、同年ケルンにてフルトヴェングラー指揮ベルリンフィルハーモニー管弦楽団のベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》を聴き、強い衝撃を受けている。田村はその時の感動を「“神々しい”の一語に尽きる³⁾」と表現し、これについて兼重は、間宮芳生編曲ベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕の出版にあたり、田村からの委嘱理由を次のように考え、楽譜解説に記述した。

「“神々しい”の一語」の中に、音楽への憧憬、芸術家としてのあるべき姿、奥深いドイツ音楽の神髄など、田村先生の言葉にならない感動が集約されている。そして、このような感動をエネルギーとして、ご自身の人生を演奏活動と教育活動を通して音楽に捧げるに至ったのである、と確信している。(中略) 田村先生はこの若き日の感動が晩年に蘇り、間宮芳生先生に編曲を依頼されたのではないだろうか。⁴⁾

編曲、取り分け編成については田村と間宮の両方で様々な議論が交わされ、ベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》には2台6手が適しているという結論に至ったとのことである。その経緯について間宮は以下のように回想している。

「2台のピアノを2人で弾く形もある。しかしそれでは、この曲の構成の大きさ、ベートーヴェンの強い情熱と、同時に実にきめ細やかな響き、ピアノシモのすごい表現力は書き表し切れない気がして来た。そこで2台のピアノを3人で弾く、1台は連弾、もう1台は力強さも示せる1人でという、6手用にしようという考えに至った。だが今となつては、この考えが、田村先生からか、私から出たか、記憶はさだかでない。しかし田村先生の、この編曲にかけた熱意を思い出すと、この考えもやはり田村先生からだったような気がする。」⁵⁾

しかし、田村は第1楽章の編曲が完成したところで他界、自ら演奏する機会はなかった。そこで田村の熱い想いを受け継ぐべく、ピアニスト小山実稚恵⁶⁾から残された楽章の編曲を間宮芳生に依頼、そして師の薫陶を受けた教え子たちによって『運命』プロジェクト⁷⁾を結成、初演⁸⁾、出版となった。

このような経緯を辿る中、初演に向けた『運命』プロジェクトによる練習過程において、オーケストラ作品のピアノ2台6手での再現について、プロジェクトメンバーより様々な演奏上の意見が出された。更に、出版に向けた編集過程においても、アンサンブルを通してその能力や個のピアノ実技演奏能力を高めるだけでなく、『運命』2台6手の学習体験を通して培われる本編曲作品の学習効果が教育現場で活かせることが明らかになってきた。そこで、ピアノ実技を通しての幅広い音楽の学びの可能性、2台6手『運命』の学習意義を検討する。

2. 教員養成課程音楽専攻生の学びにおける『運命』の学習意義

ピアノは様々な音楽ジャンルにおいて有効に活用され、音楽の授業をはじめとする教育現場でも欠かすことはできない楽器である。一方、教員養成課程音楽専攻生の多くは、幼少より習い事としてピアノを始め、その延長として音楽教員を目指し入学して来るケースがほとんどである。このような教員養成課程音楽専攻生のピアノ実技指導においては、ハノンやチェルニー練習曲集を始めとする基礎的な演奏技術の習得、歌唱教材の弾き歌いや初見視奏など学校現場で求められるピアノ実技能力の養成とともに、バロック、古典派、ロマン派、近現代の芸術性の高い作品も学習課題としている。しかし、教員養成という括りにおけるピアノ実技指導の目的は、幅広い音楽の学びの可能性、つまり、教育現場で活用できる実技能力の涵養を図ることにある。そこで、間宮芳生編曲によるベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕を活用したピアノアンサンブル学習に着目した。

前述のように、オーケストラ作品のピアノでの再現は、オーケストラ楽器とピアノの発音手段・機能が異なり限界がある。しかし、複数の奏者によるアンサンブルという視点からは有益な学びが得られる。そこで本研究では、次の2つの学びに焦点をあてた。それは、ピアノ奏者3人のアンサンブル能力に関わる2つの視点、“2台6手のアンサンブルと指揮との関連”、および“2台6手アンサンブルとソルフェージュとの関連”からの検討である。そこから教員養成課程音楽専攻生のピアノ実技指導におけるベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕の学習意義を論ずる。

3. 事例

3-1 2台6手アンサンブルと指揮との関連

ベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕はピアノ2台にピアニスト3名の編成、第1ピアノ2名、第2ピアノ1名である。つまり、奏者間の合わせに複雑な絡みが生じるところがピアノ2台6手の特徴である。そこには奏者3人の音楽の共有という視点が必要となる。更にピアノ2台アンサンブルでは指揮者は存在しない。従って、状況に応じてピアノ奏者の何れかが指揮者の役割を担う適切な指示を出さなければならない。つまり指揮に関する知見が必要となり、奏者には身体の一部を使った、視線を伴う音楽的コミュニケーションが求められる。但し、このような行為はピアニストにミスタッチが生じ易く、演奏そのものに支障を来たす可能性を含むため、高い集中力が必要である。

以下、ベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕の初演に向けての練習過程および出版に至る編集過程において、演奏者の一人が指揮者の役割を担うという視点から事例を挙げ、2台6手アンサンブルと指揮との関連について述べる。

なお、本文中と譜例の太数字は小節を示し、3名の奏者の表記は、第1ピアノ第1奏者をPrimo、第1ピアノ第2奏者をSecondo、第2ピアノとした。また、ピアノ奏者の指揮者の役割を担う指示行為については“指示”と記述する。

(1) ユニゾンの対応

第1楽章冒頭1から2の“「運命」の動機”、オーケストラ版は弦楽5部とクラリネットのユニゾン【譜例1-1】、間宮の編曲版では3人の奏者によるユニゾンである【譜例1-2】。この“「運命」の動機”は本作品の楽曲構造上の根幹を成すものである。奏者間で入念な打合せを行い、テンポ⁹⁾の共有を図らなければならない。以下の手順①～③で対応する【譜例1-3】。

- ① 3人の奏者が視線を合わせ、第2ピアノは二分音符1拍単位で2小節分、動きを伴わない予備拍を数える。
- ② 第2ピアノは二分音符1拍単位で1小節分の予備拍を“指示”。
- ③ 第2ピアノは1の1拍目を“指示”、八分休符を3人が共有。

【譜例1-1】オーケストラ版：1～5

【譜例1-2】2台6手版：1～5

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン
交響曲第5番 [2台6手のための]

全音楽譜出版社刊 ベートーヴェン交響曲第5番ハ短調作品67
ポケットスコア

【譜例1-3】“「運命」の動機”：1～5

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

(2) フェルマータ¹⁰⁾を伴うテンポの対応

フェルマータの長さは演奏者の解釈によって様々である。ここでは第1楽章冒頭“「運命」の動機”のテンポ統一に鑑み、本事例ではフェルマータを2倍の長さとする。2の“「運命」の動機”最終音Es音は2小節分の音価、そして繰り返される4から5の2度目の“「運命」の動機”最終音D音は3小節分の音価となる。以下の手順①～③で対応する【譜例2】。この手順は6から19の循環する“「運命」の動機”のテンポ維持への伏線となる。

- ① 第2ピアノは2を二分音符1拍単位で2拍分の“指示”。
- ② 第2ピアノは3の1拍目を“指示”、八分休符を3人が共有。
- ③ 第2ピアノは4から5を二分音符1拍単位で3拍分の“指示”。

【譜例2】 2台6手版：1～19

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

L. van Beethoven

arr. for 2 pianos, 6 hands by Michio Mamiya

Allegro con brio (♩=108)

The score is for two pianos, 6 hands. It is in 3/4 time, key of D minor, and marked 'Allegro con brio' with a tempo of 108 quarter notes per minute. The score is arranged for two pianos, 6 hands by Michio Mamiya. The first system shows measures 1-9. The second system shows measures 10-19. The score includes dynamic markings (ff, p, f) and tempo markings. Circled numbers 1, 2, and 3 are placed at specific points in the score to indicate key performance instructions.

第1楽章の再現部、第2ピアノの268の四分音符D音はフェルマータである。また“「運命」の動機”はPrimoの269、Secondoの271の順に引き継がれている。以下の手順①～③で対応する【譜例3-1】【譜例3-2】。

- ① 第2ピアノは269の八分休符の予備拍として、268のフェルマータD音の裏拍を269からのTempo Iで“指示”。
- ② 第2ピアノは269の1拍目を“指示”、八分休符を3人が共有。
- ③ Secondoの271は、第2ピアノの①と②の“指示”で受け継がれたテンポに留意。

なお、前述のように“「運命」の動機”のフェルマータの長さは演奏者の解釈によって様々である。適宜、奏者間で検討、対応することを付記しておく。

【譜例3-1】 2台6手版：265～271

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

265

Adagio Tempo I

cresc. *ff* *p*

I

cresc. Timp. *ff* Timp. *p*

265

Adagio Tempo I

cresc. Ob. *f* *p*

II

2 3

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327

328

329

330

331

332

333

334

335

336

337

338

339

340

341

342

343

344

345

346

347

348

349

350

351

352

353

354

355

356

357

358

359

360

361

362

363

364

365

366

367

368

369

370

371

372

373

374

375

376

377

378

379

380

381

382

383

384

385

386

387

388

389

390

391

392

393

394

395

396

397

398

399

400

401

402

403

404

405

406

407

408

409

410

411

412

413

414

415

416

417

418

419

420

421

422

423

424

425

426

427

428

429

430

431

432

433

434

435

436

437

438

439

440

441

442

443

444

445

446

447

448

449

450

451

452

453

454

455

456

457

458

459

460

461

462

463

464

465

466

467

468

469

470

471

472

473

474

475

476

477

478

479

480

481

482

483

484

485

486

487

488

489

490

491

492

493

494

495

496

497

498

499

500

501

502

503

504

505

506

507

508

509

510

511

512

513

514

515

516

517

518

519

520

521

522

523

524

525

526

527

528

529

530

531

532

533

534

535

536

537

538

539

540

541

542

543

544

545

546

547

548

549

550

551

552

553

554

555

556

557

558

559

560

561

562

563

564

565

566

567

568

569

570

571

572

573

574

575

576

577

578

579

580

581

582

583

584

585

586

587

588

589

590

591

592

593

594

595

596

597

598

599

600

601

602

603

604

605

606

607

608

609

610

611

612

613

614

615

616

617

618

619

620

621

622

623

624

625

626

627

628

629

630

631

632

633

634

635

636

637

638

639

640

641

642

643

644

645

646

647

648

649

650

651

652

653

654

655

656

657

658

659

660

661

662

663

664

665

666

667

668

669

670

671

672

673

674

675

676

677

678

679

680

681

682

683

684

685

686

687

688

689

690

691

692

693

694

695

696

697

698

699

700

701

702

703

704

705

706

707

708

709

710

711

712

713

714

715

716

717

718

719

720

721

722

723

724

725

726

727

728

729

730

731

732

733

734

735

736

737

738

739

740

741

742

743

744

745

746

747

748

749

750

751

752

753

754

755

756

757

758

759

760

761

762

763

764

765

766

767

768

769

770

771

772

773

774

775

776

777

778

779

780

781

782

783

784

785

786

787

788

789

790

791

792

793

794

795

796

797

798

799

800

801

802

803

804

805

806

807

808

809

810

811

812

813

814

815

816

817

818

819

820

821

822

823

824

825

826

827

828

829

830

831

832

833

834

835

836

837

838

839

840

841

842

843

844

845

846

847

848

849

850

851

852

853

854

855

856

857

858

859

860

861

862

863

864

865

866

867

868

869

870

871

872

873

874

875

876

877

878

879

880

881

882

883

884

885

886

887

888

889

890

891

892

893

894

895

896

897

898

899

900

901

902

903

904

905

906

907

908

909

910

911

912

913

914

915

916

917

918

919

920

921

922

923

924

925

926

927

928

929

930

931

932

933

934

935

936

937

938

939

940

941

942

943

944

945

946

947

948

949

950

951

952

953

954

955

956

957

958

959

960

961

962

963

964

965

966

967

968

969

970

971

972

973

974

975

976

977

978

979

980

981

982

983

984

985

986

987

988

989

990

991

992

993

994

995

996

997

998

999

1000

【譜例3-2】 2台6手版：268 (拡大)

①

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

(3) アウフタクトへの対応

第2楽章のアウフタクトで始まる冒頭の主題1、オーケストラ版はヴァイオラとチェロのユニゾン【譜例4-1】、間宮の編曲版ではPrimoと第2ピアノのユニゾンである【譜例4-2】。

【譜例4-1】 オーケストラ版：1～7

全音楽譜出版社刊 ベートーヴェン交響曲第5番ハ短調作品 67 ポケットスコア

Andante con moto ♩ = 92

Violini I

Violini II

Viola

Violoncelli

Contrabassi

p dolce *f*

p dolce *f*

pizz. *p*

【譜例4-2】 2台6手版：1～5

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

L. van Beethoven
Michio Mamiya

Andante con moto (♩=92)

Primoと第2ピアノの導入部の主題1は1から始まるSecondoと第2ピアノバス音のユニゾンのアンサンブル【譜例4-2】にも影響を及ぼす重要な旋律である。3人の奏者は主題1の付点に留意、八分音符の4分割の拍感や導入部のイメージの共有など、奏者間で十分な打合せを行い、以下の手順①および②で対応する【譜例4-3】。

- ① 3人の奏者が視線を合わせ、冒頭からのp dolceを確認。
- ② 第2ピアノは八分音符1拍単位の2拍分の予備拍をp dolceに留意して柔和に“指示”。

【譜例4-3】 主題1の冒頭

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

Andante con moto (♩=92)

第3楽章の冒頭、オーケストラ版はチェロとコントラバスによるユニゾン【譜例5-1】、間宮の編曲版ではSecondoと第2ピアノのユニゾンである【譜例5-2】。

【譜例5-1】 オーケストラ版：1～11

全音楽譜出版社刊 ベートーヴェン交響曲第5番ハ短調作品67 ポケットスコア

Allegro ♩=96 poco ritard. a tempo

【譜例5-2】 2台6手版：1～6

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

Allegro¹¹⁾であることから“指示”は1小節1拍単位となるが、3拍目のアウトタクトに留意し、Secondoと第2ピアノは、予備拍2小節を1小節1拍の3分割の拍感でとらえておかなければならない。以下の手順①および②で対応する【譜例5-3】。

- ① 第2ピアノはSecondoへ視線を送り、冒頭からのppを確認。
- ② アウトタクトのppにアクセントが付かないように留意し、1小節1拍単位の2小節分の柔和な予備拍を“指示”。

【譜例5-3】 冒頭の主題より：1～4

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

(4) テンポの変化への対応

第2楽章の205ではそれまでのAndante¹²⁾からPiù moto¹³⁾への指示がある。

小節線を跨ぐ急激なテンポの変化への対応には奏者間の十分な打合せが必要である。以下の手順①～③で対応する【譜例6】。

- ① Secondoの203では205からの急激なテンポの変化を第2ピアノへ予感させる視線。
- ② それまでのpからフレーズの終結音の205のAs音がテンポ変化と同時にppとなるため、Secondoは204の3拍目で視線を伴った柔和な“指示”を第2ピアノへ送る。
- ③ SecondoはPiù motoのテンポを“指示”、第2ピアノは流れに乗ってcodaの旋律を奏する。

【譜例6】 2台6手版：203～208

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

The musical score is for two pianos, labeled I and II. It covers measures 203 to 208. Piano I starts with a piano (*p*) dynamic and a *Più moto* instruction. Piano II starts with a pianissimo (*pp*) dynamic and a *Più moto* instruction, followed by a *dolce* instruction. Three circled numbers (1, 2, 3) with arrows point to specific measures in piano II, indicating tempo transition points. Measure 203 is marked with a circled '3' in both pianos.

(5) 連続するテンポの変化への対応

第4楽章は352までのAllegro¹⁴⁾に対し、353から sempre più Allegro、355から più stretto、362から Presto¹⁵⁾と連続するテンポの加速が指示されている。どのような手段でテンポを加速させるかを奏者間で十分に検討しなければならない。特に1小節2拍単位から1小節1拍単位に移行させる“指示”が重要である。具体的には変奏された350から361の4小節単位のフレーズを踏まえ、350から357は1小節2拍単位の“指示”、358からは1小節1拍単位の“指示”への移行が望ましい。以下の手順①～④で対応する【譜例7】。

- ① 第2ピアノの353ではそれまでのテンポと同様の速さを保つ。
- ② 第2ピアノの354からは視線を伴いながら1小節2拍単位で徐々に加速させる“指示”。
- ③ 第2ピアノは355の più strettoに入り徐々に加速させる“指示”を1小節2拍単位で継続。
- ④ 第2ピアノは358で1小節2拍単位から1小節1拍単位の“指示”に移行、徐々に加速させながら Prestoへ入る。

【譜例7】2台6手版：349～365

sempre più Allegro

① sempre più Allegro

più stretto

② ③ ④

Presto (♩ = 112)

Presto (♩ = 112)

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

3-2 2台6手アンサンブルとソルフェージュとの関連

好ましいアンサンブルの実現のために、各奏者のソルフェージュ能力が問われることは言うまでもない。ソルフェージュの観点から、本作品を有効に活用することもできる。

鍵盤を奏することからいったん離れ、部分的に取り出し、テンポをとりながら歌ったりリズム読みをすることで、お互いに聴き合ってテンポの統一を図るなど、音楽の基礎的能力に関わる学習効果が期待できる。

(1) テンポの一貫性への対応

第1楽章全体を通じて現れる“「運命」の動機”のテンポを維持することが肝要である。特に第2主題に入るとテンポが遅くなる傾向に陥りやすいが、第2ピアノが奏する動機のテンポを維持すべきである。63からのテンポを一貫させるための効果的な練習方法の一例として、第2主題を歌いながら“「運命」の動機”をリズム打ちする練習を提案する【譜例8-1】【譜例8-2】。

【譜例8-1】 2台6手版：57～80

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

【譜例8-2】

練習提案 1. リズム打ち練習 : 59~70

練習提案 2. リズム打ち練習 : 59~70

(2) 緻密なアンサンブルへの対応

たとえば、第2楽章のカノン風に書かれた128アウフタクトからは、全曲の中でも大変デリケートで粗末にできない部分である【譜例9-1】。オーケストラ版で木管楽器によって奏される旋律が、間宮の編曲版では各ピアノ奏者によって演奏される。例えば、【譜例9-2】に示したように135から138では3本の旋律を実際に声に出して歌い、1本の旋律をピアノで弾いて合せてみる。また互いのパートを随時入れ替えて練習する。その際、リズム、音程、テンポ、アーティキュレーションなどに留意しながら、互いのパートをよく聴き合い、カノン風のしくみを把握することが肝要である。更に高い音域を1オクターブ下げて歌う工夫や、音高をつけずにリズム読みをすることも必要である。また、この部分には転調が見られることから、変イ長調、変ホ長調、それぞれの部分を、固定ド、移動ドの両方で歌ってみることも有益であろう。

【譜例9-1】 2台6手版：123～146

全音楽譜出版社刊 間宮芳生編曲 ベートーヴェン交響曲第5番 [2台6手のための]

Musical score for Example 9-1, measures 123-146. The score is arranged for two grand pianos (I and II). It features various dynamics including *dolce*, *pp*, *p*, *f*, and *sempre pp*. The notation includes slurs, accents, and articulation marks.

【譜例 9-2】 練習提案：135～138

Musical score for Example 9-2, measures 135-138. The score is for a vocal exercise involving four parts: I (Vo.), II (Vo.), III (Vo.), and Pf. (Piano). All parts are marked with the dynamic *dolce*. The notation includes slurs and articulation marks.

4. 考察

現行の中学校教諭1種免許状（音楽）・高等学校教諭1種免許状（音楽）取得における教科に関する科目として、“ソルフェージュ”、“声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）”、“器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）”、“指揮法”、“音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）”の単位取得が必須となっている。

3. 事例で検討した結果、ベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕の学習には、教科に関する科目の中の“器楽”におけるピアノ実技と合奏のみならず、“指揮法”と“ソルフェージュ”の学習要素も含まれ、個々の縦割りの学びではない横断的な学びの確認ができた。具体的には、指揮者的役割が課せられるピアノ奏者の指揮に関する知見の習得、そして、お互いに聴き合ってテンポの統一を図るなど、音楽の基礎的能力に関わるソルフェージュ能力向上への活用である。

現在、学習指導要領の改訂が進行中であるが、平成28年12月21日付け中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び方策等について（答申）」の中で改訂のポイントとして次の3点が挙げられている。

「音楽科、芸術科（音楽）で育成を目指す資質・能力について、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱は相互に関連し合い、一体となって働くことが重要である。このため、必ずしも、別々に分けて育成したり、「知識・技能」を習得してから「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるといった順序性を持って育成したりするものではないことに留意する必要がある。」¹⁶⁾

上記を踏まえ、ベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕のピアノ実技指導における学習意義を、指揮とソルフェージュの2点に着目して考察した結果、上記の「三つの柱」¹⁷⁾に次のような関連を見出した。

ピアノ独奏曲の実技指導においては、その内容がピアノ奏法だけに偏る傾向があるが、間宮芳生編曲のベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》の場合、3人の奏者によるピアノ2台6手というアンサンブルであることから、指揮に関する知見やソルフェージュ能力など幅広い「知識・技能」¹⁸⁾が問われる。たとえば、指揮においては、本編曲の楽章冒頭のユニゾンやアウフタクトへの対応、急激なテンポの変化や連続するテンポの変化への対応、ソルフェージュにおいては、本編曲を歌やリズム打ちなどのソルフェージュ課題として活用することにより、互いに聴き合う、テンポを統一する、リズムや音程を正確に表現する、曲のしくみを把握する能力の向上が期待できる。更に、楽曲に関する個々人の異なる考え方を一つの表現にまとめ上げるには、3人の「思考力・判断力・表現力等」¹⁹⁾が求められる。たとえば、フェルマータの長さの決定、テンポの変化への対応ではどこからどのようにテンポを変化させるのか、3人でよく話し合いながら、他者の考えを受け入れ、複数の考えを統一しなければならない。奏者の一人が指揮者の役割を担う、視線を伴う“指示”については奏者間の信頼関係にもつながる。奏者間のこのような姿勢は「学びに向かう力・人間性等」²⁰⁾にも該当する。

幼少期からのピアノ学習は個の技量向上を中心に展開されている。言うまでもなく、個の技量

が備わっていなければ複数の奏者とのピアノアンサンブルは実現しない。つまり、奏者それぞれが個の技量を備え、且つ奏者間の緻密な音楽的コミュニケーションを図ることが求められる。本研究では、ピアノ奏者3人のアンサンブル能力に関わる視点として、“2台6手のアンサンブルと指揮との関連”、および“2台6手アンサンブルとソルフェージュとの関連”の2つの学びに焦点をあてたが、間宮芳生編曲によるベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕は、“指揮との関連”における指揮の知見に基づく対応手順、“ソルフェージュとの関連”における練習方法の工夫など、3人の奏者が奏者間の緻密な音楽的コミュニケーションを図りながら各々の実技能力を高める要素を包含する編曲作品であるという検討結果が得られた。

5. まとめ

本研究において、ピアノ奏者3人のアンサンブル能力に関わる視点として、“2台6手のアンサンブルと指揮との関連”、および“2台6手アンサンブルとソルフェージュとの関連”の2つの学びに焦点をあて、間宮芳生編曲によるベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕の学習意義を検討した結果、横断的な学習における有効性を見出すことができた。

更に新学習指導要領に示された「三つの柱」²¹⁾にもその学習意義が合致することから、教員養成課程音楽専攻生のピアノ実技指導に適した教材であることが確認できた。

今後の課題であるが、『教員養成課程音楽専攻生のピアノ実技指導に関する一考察(2)』として実際に本編曲を学生に演奏させることにより、“2台6手のアンサンブルと指揮との関連”、および“2台6手アンサンブルとソルフェージュとの関連”を被験者がどのように学び、どのように演奏に反映させていくかを検討する予定である。

加えて、オーケストラスコアと2台6手編曲楽譜との比較を行い、本論では触れられなかった“音楽理論・作曲法(編曲法を含む)”にも着目したい。更には、作品の背景など“音楽史”の学習意義も含まれていると推測し、新学習指導要領の内容を踏まえながら研究を進めたい。

本研究は、蛭多・兼重で企画・構成、“1. はじめに”を蛭多・兼重、“2. 教員養成課程音楽専攻生の学びにおける『運命』の学習意義”を兼重、“3. 事例 3-1 2台6手アンサンブルと指揮との関連”を兼重、“3. 事例 3-2 2台6手アンサンブルとソルフェージュとの関連”を蛭多、“4. 考察”および“5. まとめ”を蛭多・兼重が執筆した。

注

- 1) 間宮芳生(1929～)：東京音楽学校(現 東京藝術大学音楽学部)卒業後、東京藝術大学、桐朋学園大学にて教鞭をとる一方で、オーケストラ作品、室内楽曲、ピアノ独奏曲、合唱曲、オペラなど多岐にわたる創作活動を行っている日本を代表する作曲家である。(参考：間宮芳生編曲ベートーヴェン交響曲第5番〔2台6手のための〕(2016)全音楽譜出版社)
- 2) 田村宏(1923～2011)：東京音楽学校(現 東京藝術大学音楽学部)卒業後、1947年より東京藝術大学にて後進の指導にあたる傍ら、日本を代表するピアニスト、室内楽奏者として昭和から平成にかけて活躍した日本ピアノ界の重鎮である。(参考：“田村宏メモリアルコンサート”2016.3.21 東京文化会館小ホール プログラム)
- 3) 田村宏『ある長老ピアニストのひとりごと』執筆協力 萩谷由喜子 ショパン(2009) p.104

- 4) 間宮芳生編曲ベートーヴェン交響曲第5番〔2台6手のための〕全音楽譜出版社 (2016) p.8
- 5) “田村宏メモリアルコンサート” 2016.3.21 東京文化会館小ホール プログラムより
- 6) 小山実稚恵 (1959～): 東京藝術大学附属高校、同大学音楽学部を経て、同大学院修了。チャイコフスキー、ショパンの2大国際コンクールに入賞。2005年度文化庁芸術祭音楽部門大賞、2017年芸術選奨文部科学大臣賞など受賞も数多く、日本を代表するピアニストとして第一線で活躍している。(参考: “田村宏メモリアルコンサート” 2016.3.21 東京文化会館小ホール プログラム)
- 7) 兼重直文・蓼沼恵美子・蛭多令子・前田美由紀・蓼沼明美・田村径子・小山実稚恵・本多昌子・若林顕。
- 8) 第1楽章: 蓼沼恵美子/蓼沼明美/本多昌子、第2楽章: 兼重直文/蛭多令子/前田美由紀、第3楽章&第4楽章: 田村径子/小山実稚恵/若林顕によって初演された。
- 9) ベートーヴェンは♩ = 108を指示している。
- 10) その音符(休符)をほどよく延ばす。(参考: 小原光一ほか14名『中学生の音楽2・3上』教育芸術社 2016 p.79)
- 11) ベートーヴェンは♩ = 96を指示している。
- 12) ベートーヴェンは♩ = 92を指示している。
- 13) ベートーヴェンは♩ = 116を要求している。
- 14) ベートーヴェンは♩ = 84を指示している。
- 15) ベートーヴェンは♩ = 112を要求している。
- 16) 文部科学省『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について(答申)中教審第197号 平成28年12月21日』第2部 第2章 7.音楽、芸術(音楽)
 - (1) 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた音楽科、芸術科(音楽)の目標の在り方
 - (2) 課題を踏まえた音楽科、芸術科(音楽)の目標の在り方、中央教育審議会 p.161 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf) 2016.3.1
- 17) 同上
- 18) 同上
- 19) 同上
- 20) 同上
- 21) 同上

謝辞

本研究の執筆にあたり、蛭多・兼重の恩師である田村宏先生、ベートーヴェン《交響曲第5番Op.67》〔2台6手のための〕を編曲された間宮芳生先生、版面使用のご承認をいただきました全音楽譜出版社の下條俊幸様、練習提案の楽譜作成に協力いただきました大畑真さん(東京藝術大学音楽学部作曲科1年生)に深く感謝いたします。

引用および参考文献等

- ・間宮芳生編曲ベートーヴェン交響曲第5番〔2台6手のための〕全音楽譜出版社 (2016)
- ・ベートーヴェン交響曲第5番ハ短調作品67 ポケットスコア 解説 諸井三郎 全音楽譜出版社 (2016)
- ・“田村宏メモリアルコンサート” 2016.3.21 東京文化会館小ホール プログラム
- ・田村宏『ある長老ピアニストのひとりごと』執筆協力 萩谷由喜子 ショパン (2009)
- ・小原光一ほか14名『中学生の音楽2・3上』教育芸術社 (2016)
- ・マックス・ルドルフ『指揮法』大塚明訳 音楽之友社 (1994)
- ・斎藤秀雄『指揮法教程』音楽之友社 (1966)

- ・文部科学省『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）中教審第197号 平成28年12月21日』第2部 第2章 7.音楽、芸術（音楽）(1) 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた音楽科、芸術科（音楽）の目標の在り方 ②課題を踏まえた音楽科、芸術科（音楽）の目標の在り方 中央教育審議会 〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf〉 2016.3.1

(2017年3月31日提出)

(2017年4月17日受理)

A study on Piano practical skill instruction in teacher training programs for students in the music speciality (1):

An examination of the learning significance of Beethoven's symphony fifth Op.67
for 2pianos 6hands

EBISUTA, Reiko

Faculty of Education, Saitama University

KANESHIGE, Naofumi

Faculty of Education, Mie University